

事業名

育てよう地域の「輪」・「話」・「和」

目標

安全安心の町づくり、地域の環境、学校環境の整備

1. 取組の視点

「子どもの元気は校区の力、地域の力。」子どもが育てば地域は育つ。「育てよう地域の輪、話、和。」を目標として、本年度は、学校環境・地域環境の整備に取り組みたい。環境が良くなると心もきれいになる。生活環境が良くなると授業・学習にも集中出来るようになる。学習支援・環境整備・安心安全・学校行事への支援は継続して行う。各校での事業と相まって校区の子どもに人間力をつけ、忍耐力と想像力を鍛え豊かで逞しく生きる人間の育成を望んでいきたい。

2. 取組の概要

従来からの学校園への支援を継続する。PTAはじめ地域の方々の支援を学校園にいただき更に充実した支援を目指す。また、学校園を含めて地域全体の環境の整備事業に取り組む。心を癒し



落ち着いた環境で学習活動がすすめられるように各校園の環境を改善し、園児・児童・生徒が生き生きと成長できる助けとする。草刈り、樹木の剪定、校園内の簡単な修理や花植えや植樹等により積極的な環境美化を行う。ボランティアルームの整備充実により、より支援・協力が出来る基地となり、またボランティアや地域の人・コーディネーターが集うよりよい関係づくりに生かしたい。また各校園の事業として、中学校は「豊かな

人間性の育成」二名小学校は「磨けよ心、きたえよ体、地域と学ぶ二名っ子」二名幼稚園は「二名



大好き奈良大好き、わくわく元気二名っ子」青和小学校は「優しさあふれる学校」青和幼稚園は「心が動く・体が動く・笑顔輝くみんなの幼稚園」として取り組みを展開する。

3. 成果と課題

地域の方々の来校機会が増え、学校理解につながった。子どもを見守る大人の数が増え、安全安心につながってきた。地域の方と、遊びながらルールや規範意識が芽生えている。草引きや剪定花植えなど校内環境が整い、来校者から良い評判をいただいた。

課題としては、学校の要望と、ボランティアの方のマッチングが難しい。地域への学校支援事業の広報活動と学校が必要とする支援員の内容を理解し、支援ボランティアを募集する機会の充実、支援ボランティアさん



との頻繁な連絡調整、登録会員と学校教職員との十分な打ち合わせ時間の確保、事務処理（情報処理も含む）担当者の負担軽減、持続可能な組織の構築などである。

事業名

豊かな人間性の育成

目標

大きな舞台での発表や職場体験等で、豊かな人間性を育成する**1. 取組の視点**

本校は、開校以来、生徒の自主性や自立心、そして豊かな感性を育てるため、様々な取り組みや事業を展開してきた。最近では、花作りを、情操教育の一環として定着させ、保護者や地域の中でも高く評価された。土作り、施肥、灌水などの比較的長期的な作業をとおしていたわりの心や感動や環境や物を大切にするなど豊かな心を育む大切な取り組みの一つとして位置づけ、継続的に花や緑がいっぱいの学校づくりを推進してきた。今年度は、上記取り組みと共に、大きな舞台での発表や、職場体験等の様々な体験から、自ら学ぶ意欲や問題解決する能力等を養い子どもたちの感性を高め、豊かな人間性を育成してきた。

2. 取組の概要

生徒全員に大きな舞台での発表を体験させ、コミュニケーション能力や、相手を思いやる豊かな感性を高めさせるため、9月17日に文化会館を貸し切り、クラス合唱や文化発表等を体験させた。

また、9月22日には8人の講師（医者、奈良



交通社員、消防署職員、保育師、美容師、カメラマン、ケーキ職人、レストラン職員）を招聘し、働くことのすばらしさや厳しさを理解させたいと、職場体験をさせることができた。12月7

日には、助産婦さんの講演を聴くこともできた。

12月8日には、各クラスにシクラメンの花を飾ることができ、生徒たちの感性を高めることができた。12月13日には、1年生一人一人がそ



れぞれのプランターに三色のパンジーを植える取り組みを実施した。地域ボランティアの協力で花を初めて植える生徒も、無事植えることができ、すべてのプランターを並べ終えたとき、生徒たちは何ともいえない達成感にうち満ちていた。このような取り組みをすることで、子どもたちの感性を高め、豊かな人間性を育成した。

3. 成果と課題

文化会館を借り、大きな舞台で合唱や文化発表を体験させることで、生徒たちは、練習段階で互いにコミュニケーションをとるようになり、そのことで生徒たちのコミュニケーション能力が高まり、豊かな人間性の育成につながった。また、大きな舞台での発表をみんなで取り組む中で、相手を思いやり、相手の思いを感じ、相手の身になって考えられるような、豊かな感性も育ったように感じた。職業調べ講演会では、それぞれの職業に従事しておられる上での、喜びや苦勞、注意されていることや心がけなど様々な内容を聴かせていただき、自分の進路について考え、社会人としての意識や態度を育て、職場体験につなげることができた。

事業名

優しさあふれる学校

目標

「人間性豊かで、自主的に生活をきりひろく、たくましい児童を育てる。」という目標にもとづき、本年度の指導の重点として、「学力の向上」と「生活力の向上」の二つを中心にすえ、事業を推進する

1. 取組の視点

児童が何事にも誠実に一生懸命取組、みんなの和を大切にするために、地域の様ざまな場面で活躍されている方々の支援を受けながら学び交流を推進する。学力面ではコミュニケーション能力の向上と語彙を豊かにする取り組みを進め、生活面では規範意識の一層の向上をめざす取り組みを推進することが必要であると考えた。

2. 取組の概要

地域の絵手紙の得意な方に来ていただき、「絵手紙」の指導をしていただいた。この学習の後、世界遺産学習でのボランティアの方々には絵手紙



絵手紙の指導

で礼状を書いたり、6年では世界遺産ガイドブックを、絵手紙を活用しながら作成した。このように、地域の方々から学んだことを発展させ、コミュニケーションの輪が広がっていった。

また、学力向上の観点から、語彙力を豊富にする取り組みとして、全学年での研究授業をはじめ、国語辞典の活用による調べ学習を日常的に実施した。

読書の習慣を高めるため、図書の充実をはかり、地域からは、図書ボランティアの方々により、図書室で絵本の読み聞かせ、掲示物の作成、本の整理等、読書環境を整えていただいた。

また、生活面では児童会が中心となってあいさつ運動に取り組んできた。地域では立哨ボランティアによる見守り活動が充実し、その方々とのあ



立哨ボランティアによる登校指導

いさつ輪が地域にも広がっていった。この活動により児童は安心して登校するとともに交通マナーもよくなってきた。

3. 成果と課題

学力向上の取り組みの結果として、客観的な資料において確かな学力向上の結果を得ることができた。また、図書の充実により、図書室だけでなく学級文庫にも多様な図書がそろい、読書活動を身近に感じ、読書量が増えた。図書ボランティアのグループが3つになり多様な活動を展開していただき、読書環境が充実した。あいさつ運動の結果として、地域の方々から出会うと挨拶をしてくれ、気持ちいいという声を聞いている。

立哨ボランティアの人数と立哨ポイントが増加し、スクールゾーンでの一方通行の自動車が激減した。

しかし、まだ、交通量が多く危険な所での立哨がないところがあり、引き続きボランティアの充実に向け取り組みを進める必要がある。

事業名

「磨けよ心、鍛えよ身体」地域と学ぶ二名っ子

目標

地域の方から学ぶことで、豊かな心や人間関係力を育み、
体力向上を目指す

1. 取組の視点

本校児童の課題であると考えられる、次の2点を地域ボランティアの活用や行事を工夫することで克服したいと考えた。

- ① 「体力・運動能力」の向上を図る
- ② 「豊かな心」や「人間関係力」を養う

2. 取組の概要

体力向上については大学教授との連携により教師に対する研修講義を2回、体育の研究授業を3回行った。また、保護者に向けた教育講演会の開催、学校保健委員会や学級懇談会での説明等啓発に努めた。児童にはスポーツテストの結果確認を行い、運動についてのアンケートをとり、全校



【地域ボランティアと昔遊びをする1年生】

いただき、主に体験的学習（水泳教室・国際理解教育・縦笛演奏会・昔遊び・福祉体験学習・世界遺産学習・NIE教育・英語教育等）を、児童と交流しながら楽しく活動いただいた。

地域ボランティアには学校の環境整備にも協力いただき、大がかりな庭木の剪定のおかげで、校庭がとても美しくなった。

3. 成果と課題

体験学習は地域ボランティアの方々に「二名小の児童は物怖じせず質問もしっかりでき、愛嬌もある。」と言っていたいただき、人間関係力を育てることに役立った。体力作りは教師・児童・保護者に向けたそれぞれの取組の結果、意識も徐々に高まっている。

しかし、保護者の関心は未だ体力向上より成績の方が高いようで、講演会の参加も思ったほど振るわなかった。今後は地域も巻き込んで、より一層の意識の啓発に努めたい。また、日々の生活や授業の中でも豊かな心や人間関係力を育む工夫を考えていきたい。



【竹馬で遊ぶ児童】

鬼ごっこや縄跳び大会などの外遊びや、教師も共に遊ぶ行事の工夫に取り組んだ。そして、竹馬、跳び縄、ボール等の外遊びグッズの充実を図り、児童が休み時間自由に使用できるようにした。

豊かな心の育成については、図書ボランティアによる「よみきかせ」を年間を通じて行い、図書室の環境整備にも協力していただいた。

また、地域ボランティアの人たちに学校に来て

事業名

心が動く・体が動く・笑顔が輝くみんなの幼稚園

目標

幼児が多様な環境(人、物、自然)と出会い、心を動かす感動体験を重ね、生きる力を育む素地を養う**1. 取組の視点**

幼児の「心や体が動く」感動体験を重ねられるような幼稚園生活を目指し、地域の協力を得ながら、園内の環境を見直し整備する。また、講師を招聘して豊かな経験ができるような保育内容の工夫と創造をし、体験活動を多く取り入れて、人とかかわり方や、愛される心地よさを感じさせ、生きる力の基礎を培う取り組みを推進した。

2. 取組の概要

地域の方を講師に招いて「空手で遊ぼう」「英語で遊ぼう」「リトミックで遊ぼう」を行った。空手では心も体も強くなり、礼儀を学んだ。楽しく英語にふれることで世界の国々に興味や関心



地域の方による昔話の語り

をもつきっかけになった。また、リトミックでは、いろいろな音に合わせて楽しく表現しリズムカルに動く楽しさを味わった。「お話広場」として地域の方による昔話の語りを月1回、お母さんによる絵本の読み聞かせを月2回継続して行った。多数の絵本の購入もあいまって、お話が大好きになり豊かな感性が育った。地域の方に園庭でミニSL機関車に乗せてもらった。みんな大喜びで、心が動き、笑顔が輝く体験となった。

子どもたちが安全に元気一杯遊べるように園内環境を見直し、地域ボランティアの方に砂場の

木枠の整備、樹木の剪定をしていただいたり、園庭の遊具や門扉、玄関のピロティの天井にペンキを塗っていただいた。美しく明るい環境になり、よりよい教育活動の推進につながった。

地域ボランティアによる
ピロティのペンキ塗り

地域の方に育て方のアドバイスをいただきながら野菜づくりに取り組んだ。自分たちで野菜や花の苗を植え生長を楽しみにしながら栽培したり、収穫を喜び食べたりすることは豊かな心を育てることにつながった。

3. 成果と課題

子どもたちが地域の方の温かい人柄に触れ、いろいろなことを教えていただいたり、活動することで多様な経験ができたことは、「心が動く、体が動く、笑顔が輝く」ことにつながった。また、人とかかわり方を知り、愛される心地よさを感じたことは、豊かな心を育む素地となった。

地域のボランティア活動の輪も広がってきている。地域の方々と職員、保護者との連携を深め「みんなの幼稚園」となるように、さらに取り組んでいきたいと思う。こうした取り組みの様子や、子どもたちの姿の写真を掲示板や、プリントで知らせることで保護者にも理解してもらうことができた。さらに掲示方法等広報活動を工夫していきたい。

事業名

二名大好き奈良大好き・わくわく元気二名っ子

目標

様々なふれあいや、心に響く感動体験を通して、心豊かでたくましく生きる幼児を育てる

1. 取組の視点

園活の中で様々なふれあいや感動体験を通して豊かな心と生きる力を育むために、四季の自然物を栽培したり、地域の方々とのふれあいを楽しんだりしながら、ともに学び合い人とかかわる力や、自然物に積極的に目を向け大切にしようとする気持ちや生長を喜び命を大切にしようとする態度を育成したいと考えた。また、奈良の伝統文化、守り継がれてきた世界遺産などにふれることで、奈良の歴史に関心を持ち、奈良を愛し守り伝えていこうとする気持ちの素地を培いたいと考えた。

2. 取組の概要

(花や野菜の栽培) 7月～12月

季節の花や野菜を種から栽培したり、苗を育てたりしながら、その生長を見守り熱心に世話をし



たりして生長を喜び、小さな命に気づいた。また収穫したものを、自分たちで調理して食べる

ことにより、食べ物大切にしようとする気持ちが育った。

(ふれあいデー) 6月～2月

地域の方々や未就園児が来園し、在園児と一緒に紙芝居を視聴したり、昔の遊びを教えていただ



いたりして、一緒に遊ぶ中で、人に対する信頼感や愛情が生まれ、自分たちよりちいさな友達に優しい気持ちが育った。

また、日常生活の

中で地域の方に町で出会ったときは、自分から挨拶する姿も見られるようになってきた。

(遷都1300年事業参加園外保育) 10月

遷都1300年の催しに参加し、大極殿や朱雀門を見たり、いにしへの装束を着た人たちの行列



を見学したりして奈良の昔に興味をもち、奈良を愛する心の芽生えにつながった。

(親子絵手紙作り) 11月

子どもたちは、自分の伝えたいことや思いを絵で表現し、絵の横に保護者が子どもの思いを聞いて字で書きこんだ。自分の思いをのびのび絵で表



現したり、親子で話し合ったりしながら、親子の絆を深めることができた。

3. 成果と課題

世界遺産学習を通して、地域の民話や奈良の昔話にふれ、奈良に伝わる話に興味をもち、自分が知っている名前が出てくると喜んだりして奈良に深い関心をもつようになってきた。また、地域の方々に親しく声をかけ、積極的に遊んだりふれあったりする姿が多くなってきた。

地域の環境は、自然は豊かですが文化的施設や世界遺産と離れているため、接する機会が少ない実態がある。機会をとらえていろいろなかわりをもてるよう、地域の方々との連携を深めていきたい。